【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年2月25日(2016.2.25)

【公開番号】特開2015-186582(P2015-186582A)
【公開日】平成27年10月29日(2015.10.29)
【年通号数】公開・登録公報2015-066
【出願番号】特願2015-112415(P2015-112415)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｌ　15/16　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　 9/70　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　17/02　(2006.01)
Ａ６１Ｍ　35/00　(2006.01)
Ａ６１Ｆ　13/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｌ　15/01
Ａ６１Ｋ　 9/70　４０１
Ａ６１Ｐ　17/02
Ａ６１Ｍ　35/00　Ｚ
Ａ６１Ｆ　13/00　３０１Ｇ

【手続補正書】
【提出日】平成28年1月12日(2016.1.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
キットであって、前記キットの部品として、
患者の組織と接触して適用されるための組織ドレッシング材料と、
前記組織ドレッシング材料を前記組織から除去するための剥離溶媒と
を含み、
前記組織ドレッシング材料はキトサンを含み、このキトサンのアセチル化度が２．５％未満であり、前記剥離溶媒のｐＨは４より高く、６より低い、キット。
【請求項２】
前記組織から前記組織ドレッシング材料を除去するための前記剥離溶媒は、水性剥離溶媒であることを特徴とする、請求項１に記載のキット。
【請求項３】
前記患者の前記組織と接触して適用されるための前記組織ドレッシング材料は、固体またはゲル状であることを特徴とする、請求項１または請求項２に記載のキット。
【請求項４】
前記患者の前記組織と接触して適用されるための前記組織ドレッシング材料は、水溶性であることを特徴とする、請求項３に記載のキット。
【請求項５】
前記患者の前記組織と接触して適用されるための前記組織ドレッシング材料の主要成分は、ポリマー塩であることを特徴とする、請求項３または請求項４に記載のキット。
【請求項６】
前記患者の前記組織と接触して適用されるための前記組織ドレッシング材料は、液体で

あることを特徴とする、請求項１または請求項２に記載のキット。
【請求項７】
前記キットは、前記固体またはゲル状組織ドレッシング材料および前記剥離溶媒に加えて液体組織ドレッシング材料を含むことを特徴とする、請求項３～請求項６のいずれかに記載のキット。
【請求項８】
前記液体組織ドレッシング材料は、水溶液であることを特徴とする、請求項６または請求項７に記載のキット。
【請求項９】
前記患者の前記組織上に前記液体組織ドレッシング材料を噴霧するためのスプレー装置をさらに含むことを特徴とする、請求項６～請求項８のいずれかに記載のキット。
【請求項１０】
前記組織ドレッシング材料は、前記組織ドレッシング材が適用される前記組織の部位でのｐＨを視覚的に示すｐＨ感受性色素を含むことを特徴とする、請求項１～請求項９のいずれかに記載のキット。
【請求項１１】
前記組織ドレッシング材料は、前記組織に適用される時点で透明であることを特徴とする、請求項１～請求項１０のいずれかに記載のキット。
【請求項１２】
液体組織ドレッシング材料または水溶性固体もしくは水溶性ゲル状組織ドレッシング材料を少なくとも部分的に溶解および／または膨潤させる方法であって、
患者の組織と接触する前記組織ドレッシング材料を前記組織から除去するために前記組織ドレッシング材料へ酸性剥離溶媒を適用する工程を含み、
前記組織ドレッシング材料はキトサンを含み、このキトサンのアセチル化度が２．５％未満であり、前記剥離溶媒のｐＨは４より高く、６より低い、方法。
【請求項１３】
前記組織ドレッシング材料は、前記剥離溶媒の適用前には水溶性組織ドレッシング材料を含み、前記水溶性組織ドレッシング材料は中性ｐＨでは水に不溶性である形態へ転換させられることを特徴とする、請求項１２に記載の方法。
【請求項１４】
水溶性固体もしくは水溶性ゲル状組織ドレッシング材料であって、前記組織ドレッシング材料は患者の組織と接触するものであるとともに、前記組織ドレッシング材料が中性ｐＨで非水溶性である形態に転換するために前記組織ドレッシング材料はキトサンを含み、このキトサンのアセチル化度が２．５％未満である、組織ドレッシング材料。